

問題のことも

どこの幼稚園にでも、よいにつけ悪いにつけ、他の幼児とは違つた處のある。所謂「問題のことも」があるものです。そして、其の幼児の爲に、擔任の保母は勿論、全園の保母諸君が、保育上特別な苦心を拂ひ、特別な骨折をして居られることは、一方ならぬものです。今度は其の御經驗談を伺つたのでした。編者の考へでは、教育上特殊兒童の研究は、その特殊兒童の教育のために必要なことであるのでなく、普通兒童教育の上に、非常な參考となるものです。元來、特殊兒童なるものは、極度に異常なるものゝ外、大抵は、普通兒童の或る方面を、優れたる方にか、劣れる方にか誇張した様のものです。そこで、吾々が普通兒童に於ては氣もつかずに濟む教育上の種々の要點が、此の誇張せられた事例に對して、著しく氣づかるゝのです。實際、普通兒童をのみ取扱つて居て鈍り勝ちな吾々の教育精神なり、研究心なりが、一寸特殊なる點のある兒童に遭遇して刺戟せられ、激勵せらるる例は尠くないのです。お互に、此の心構へを以て、次のいろ／＼の御經驗談を讀み度いと思ひます。終りに、お忙しい處を、斯くも充分に書き送つて下さつた諸君に、厚くお禮を申し上げます。

○亂暴な太郎さん

横濱小學校附
屬幼稚園保母

坂 口 け い

我園に於ける特殊幼兒の狀態及保育上の注意に就て何か書く様にとの御命令で御座いますので、何か書かねばならぬと筆をとりましたが、幸か不幸か私の短い經驗のあひだには特に優良と申ほどの幼兒にも、特に低格と申ほどの者にも接しません。従つて之れと取り立て、御答へ致すほどの材

料を持ちません事を非常に遺憾に存じますが、茲に一人や、異常兒ともいふべき一男兒に就き保育法に想ひなやむだ事が御座いましたので其狀態を申述へ御指導を仰ぎたいと存じます。

或年太郎さん(假名)といふ大層亂暴な幼兒が入園いたしました。それは／＼亂暴で毎日「先生太郎さんが」といふ訴を幾度か聞かされました。此兒の家庭は祖父母と兩親との外には二人の子僧がおりますだけ、裁縫業をして居ります家の一人子で

ありました。體格の割合には丈夫ではありませんが、身體の發達して行く様子は、中々秩序的によく參りまして決して他兒に劣つた所はありませんでしたが、入園當初一見或は低能兒ではあるまいかと注意いたしましたのは、其兒の眼の形容し難き一種の光をもつて、斜視といふのでは有りませんが、正視する事が出来ないのと、發音の不明析及指先の自由を缺いて居るかと思はるゝ程の不器用さ、殆ど鉛筆を持つ能力も無い事でありました例へば鉛筆を持つて紙上を磨するもあとを印するを得ざる程に指先に力を入れ得ないので御座います。そして毎日登園すると「先生これは何處に置きますか」と辨當の置場を聞く事が二十日餘となりました。やつと二十七日目に置場が判りし様なるも「置いておいでなさい」と注意をなさいれば恰も喪心した如くぼんやりと辨當を持つて立つて居るのです。やつと注意して置いて來たと想ふともう人を泣かせて居るのです。そして「先生太郎

さんが」と云ふ時には早走り去つて陰もなく泣く子の聲のみ聞えました。保姆の手許に呼び「そういふ亂暴な事をして人を泣すのはゑらい日本男兒はしないことです。これからよしませうね」と申しますと、元氣にうなづきますので放してやりました。すると又一時間またぬ間に直に又訴へがあります。こゝにいふ風で或時は莊重に或時は淳々と言ひ聞かせても其時きり、そして何が故に叱責されるのか少しも判らない様子なので御座います此子供には過去も無く未來も無く只現在のみで少しも自己の行爲と叱責との間の關係を連絡して考へる力はない。總て電光の消えて跡無きが如く一時的の感應のみで長く其生活に適當の影響を及ぼす事は殆ど無い様なのであります。そこで之はいけない度々叱れば其叱責のみを恐る様になるに違ひない。そして其叱責を恐るゝが爲に保姆と幼兒との間に隔が出来る様な事では教育を施す事は出來ない。何とか別の方法を講じて見たいと思ひま

した先づ其人を泣かせたりする亂暴な行爲を委細に觀察して見ますと。何等の意味は無いので、只飛んで歩いて通りすがりに頭をうつとか、後から突き倒すといった様なので、之は機會に遠からせて習慣的に矯正する外はあるまいと其幼兒の行くがまゝに従つて見て居りますと、此子供は少しも遊ぶといふ事を知らない、たい人を倒し人をたたく、これが此子の遊びなので強いて遊戯の形式あるものを選べば角力で此外に所謂遊戯と名づくべき何物をも知らないものでありました。

かく此兒は活力は充分にあるが其れを如何に用ふ可きかを知らないのであるから、遊戯の方法を授けると同時に充分に其活力の満足を與へてやらねばならないと考へまして、保姆は勉めて其兒を側に引寄せ、旗とり、走りこの如き單純な遊びで、しかも活力を充分に働かせ得る遊びへと誘ひました。之は幸にして大分に結果がよいやうで「太郎さんが」といふ様な訴を聞くことが少くなりました

が其間受持保姆の細心の注意と努力とは非常なものでありました。かく努力しましたにも係らず、入園後三ヶ月目の或日の日誌に「精神上に近來はさまで異狀を認めざるも、不相變粗暴にしてよく人を泣す、今日も○○の立ち居る後より足がらを掛けて倒す」とありまして、保姆の側を少しも離すことが出来ません。一方手先の働きはと見ますと依然として些の發達を認める事が出来ませんで摺紙の如き形を成しません。殆ど三角すら完全には折り得ません。畫方に至つては畫材とすべき思想は有るも、鉛筆を持ち紙の上を磨り動かすも遂に線一すじをだに印する事能はざるほど指先の自由が此子には與へられてないと申ませうか鉛筆がぶら／＼して少しも指先に力が入らないのであります。食事時の箸は無論掴み箸で有りました。保姆は種々持ち方を教へますが指は恰度木で造つたやう指の關節のないやうに働きません。保姆は殆ど施す術を見出でませんので遂に腦の中樞に異狀で

も有るのでは無いかと或醫師に相談いたしました
が、此方面に興味を持たぬ人と見えまして單に普
通の發達であることを報告して呉れたばかりで少
しも得る所がありません。そこで此度は智能の力
を試めて見ました。

第一に聽力は如何であるかと申ますと可成音の
強弱緩急なども聞きわけ普通兒と變りは有りませ
ん。視力は正視するといふ事が出来ぬだけで色彩
の識別等はよくついて居りますが名稱と目の連
絡は正格ではありませんでした。尤も社會的事物
に就ては注意の散漫な割合には入つて居りました
が驚くのは數の觀念の發達で御座いました。初め
は一人子いとしの親心より教へられし名稱位のも
のと思ひましている／＼試して見ますと、十以下
の加減を自由に正格にいたしました。今までは殆
ど低能兒と思ひ込んで居りましたが、此の能力を
知るに至つて保母は非常に力強い事に想ひ更に努
力して前記の方法により粗暴の行爲の矯正に勉む

ると共に一方腦と手先との連絡を如何の方法によ
る可きかに就て考慮いたして選びました遊びは、
石拾ひ遊び、色板拾ひ競争、おはじき、指角力、
ひつぱりこ、竹返し、の如き指先を使用し指先に
力を入れ得るもので幾分腦と連絡のとり易きもの
で有りました。かくて一ケ年どうかしてとの心に
種々と手をかへ、品をかへて誘導いたしました
が粗暴の行爲は稍矯正なし得鬼ごと、兵隊あそび、
の如きものに興味をもつやうなりしも、手先の運
用は依然としてはか／＼しからず僅かに粗雑なる
山月木の如き普通興味を引くべき思想の片影をた
どたとしき線もて其れかと知らるゝ程に印し得る
だけに指先の力のいで來りしばかりで、學校に送
る様になりました。果して之は如何なる原因から
參つたのでせうか、又如何なる方法に依つたらよ
いのでせうか、御指導を願ふ次第で御座います。

太郎さんの亂暴には別段何等の意味もない。意味のないもの

を、たい此實したわけで、どうすることも出来ない。そこに注意せられて、遊び方を教で、そこへ其の盲目な活力の満足な與へるようになされたことは、斯ういふ子供を取扱ふ積極的方法として、最も當を得られたことと思ひます。其の効果が、幼稚園期間内で完成しなかつたのは残念に思はれませうが、訓育の問題は、目の前に直接の結果を見るといふことは難しいものです。殊に幼稚園教育に於て左様です。結果の如何にかはらず、其の着眼點の正しかつたこと、其の實施にどの位非常な御苦心があつたらうかといふことを思ふて、太郞さんと共に感謝を禁じ得ません。

次にその亂暴もの、太郞さんが、手先きが不器用なばかりでなく、まるで指先きの力のないといふことは、研究的に興味ある問題です。一體、手なり足なりの運動調整力の弱いといふことは、所謂低能兒の一般の特色の一つで此の腦と手先きの連絡が、精神發達の上に、如何に大切なることであるかといふことを、心づかざるを得ないのです。そして、太郞さんの爲めに、石拾ひ、色板拾ひ、おはじき、指角力などの遊びを撰ばれたことは、極めて科學的と申すべきです。そして、吾等は、斯ういふ特殊な場合から、之等の我國在來の遊びが保育上如何に價値を有するものであるかといふことを、知り得るのです。

太郞さんの此の不幸な原因は、恐らく遠い先天原因に潜んで居ること、それを溯つて如何とも出来ませんが、優しくて賢い教育は、僅に二三年の間に、兎に角其の先天的不幸から

これだけに太郞さんを救つたのです。偉いこと、言はなければなりません。

○智能の特に優れた子

福島幼稚園保母 須子 トミ

當園に嘗て見たことのない程智能の發達せる男兒が二名あります。甲は年齢五年五ヶ月、保護者の職業は保險會社員で御座いまして、両親とも揃つて居りますけれども、祖父母が別居致して居り目下はそこに養はれて居ります。兄弟四人のうちの下長男で、體格は大きい方、健康は至つて丈夫です。さて、此兒は他の幼兒の様にかげまはりまじたり大聲出して遊ぶといふ様のことを致しません。常に無言で、多くは室内に一人で居り、朋友と話合ひ又は物争ひなどすることもありません。畫方が至つて巧みで、話方も言語明瞭、いつでも聲高らかによく話します。一度聞いた話はよく覚えて居りました、順序よく間違なしに話します。太人も